

# No.4

## JCOPE2Mによる沖合施工海域の海流特性

片山 裕之<sup>1)</sup>, 鶴飼 亮行<sup>2)</sup>, 横畠 隆広<sup>3)</sup>, 三浦 成久<sup>3)</sup>

### Current Characteristics of the Offshore Construction Area by JCOPE2M

Hiroyuki Katayama<sup>1)</sup>, Akiyuki Ukai<sup>2)</sup>, Takahiro Yokohata<sup>3)</sup> and Naruhisa Miura<sup>3)</sup>

#### ■ 要旨

浮体式洋上風力や海底資源開発など海上施工の範囲が大水深域に展開している。設計・施工条件として波浪や風が重要だが、大水深では作業船の施工安全性や施工海域までの航行安全性の観点でも海流の影響も無視できない。しかし沖合の海流観測データは少なく、検討にはJCOPE再解析データが有効である。本稿では、JCOPE2Mを用い、今後、沖合施工が展開される水深100m以下の大水深海域の

海流特性を検討した。その結果、日平均海流であるJCOPE2MでもJCOPE-Tとの高い相関により沖合の海流特性を十分把握できることを確認した。最大海流は福島沖以北太平洋側と日本海側では0.5~1.0m/s程度、福島沖以南太平洋側では2m/s超の地点が見られた。また鉛直分布は、中下層ではガイドライン推奨の1/7乗則では過大評価となる可能性があることが確認された。

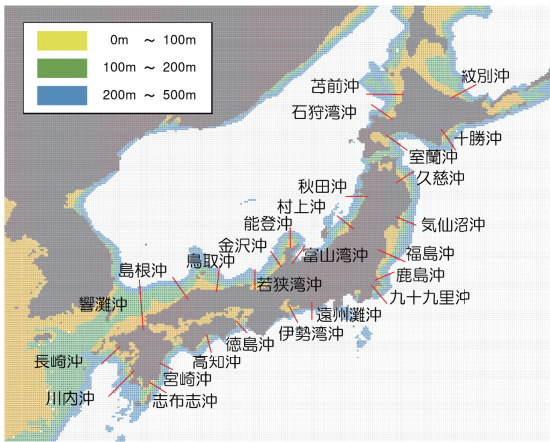


図-2 抽出地点位置図および500m以下の水深分布

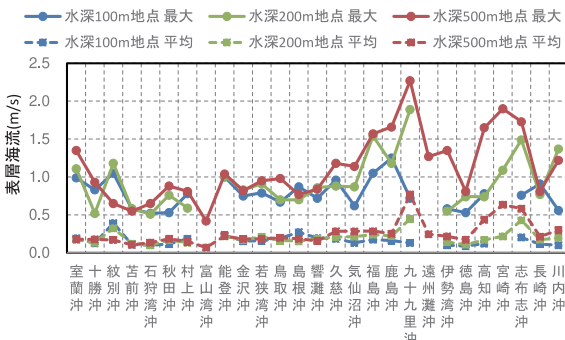


図-5 各抽出地点表層の最大・平均海流

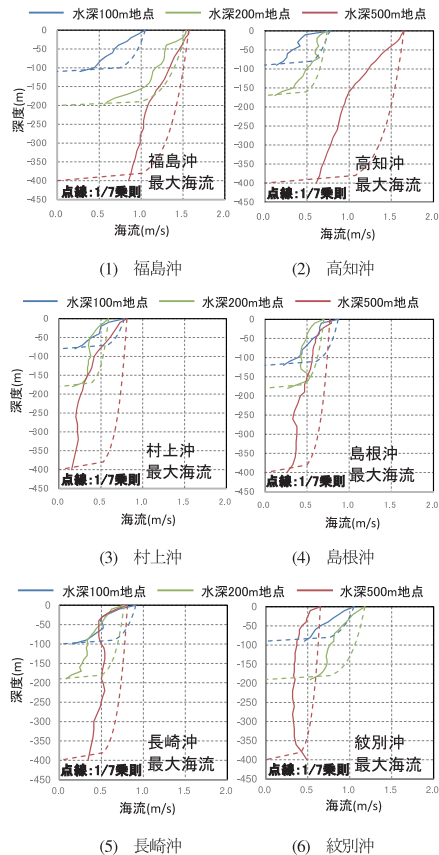


図-7 代表地点の各深度最大海流鉛直分布

1) 技術研究所 土木技術開発部  
2) 技術研究所  
3) 土木部門 洋上風力事業本部

\* 土木学会論文集, Vol.79, No.18, 2023, 土木学会, 23-18073